

■インクルファンド 2019 年度第 1 回助成 応募団体 3 団体
助成額合計 1,623,000 円

団体名	一般社団法人 こーゆうネットワーク(あきる野市)	特定非営利活動法人 コンチェルティーノ(世田谷区)
企画名	高次脳機能障害のある方向け、就労継続支援 B 型事業所設立	パソコンのあるみんなの居場所
助成の種類	新たな地域福祉事業の立ち上げ準備費用	新たな地域福祉事業の立ち上げ準備費用
団体の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・高次脳機能障害者と家族の会。 2008 年 6 月、2 家族・1 支援者・1 相談者 (市保健師)のメンバーで発足。 ・活動内容/定例会、多摩高次脳機能障害支 援センターよりリハ職等を派遣していただき 勉強会、秋に近隣の家族会との交流会。会 資源見学。係講演会等の受講、関係講演事 例発表協力、右支援センター主催講座企画 運営協力、主催講演会、当事者支援(出前 カフェ、認知グループワーク、余暇活動) ・西多摩高次脳支援センター地域懇談会、 TKK、あきる野市自立支援協議会、あきる野 市障がい者団体連絡協議会、社会福祉協 議会ボランティア市民活動団体連絡会等へ の参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンチェルティーノは 2009 年に準備会を 発足して任意団体からスタートし、NPO 法 人となり活動を継続して 10 年になった。そ の間、生きづらさを抱える人が仕事をする ことで体調を回復し前向きになれるよう、さま ざまな支援機関とも連携をしながら取り組 んできた。 ・この度、生活困窮者対象のパソコン教室の 講師を行うことがあり、パソコンの使い方を 習うことで物事に意欲的なる姿にふれ、生 きづらさを抱える人への支援としてパソコ ンが有効だと実感した。コンチェルティー ノのメンバーだけでなく地域に開かれた場とな るようにしたいとの思いから、今回の助成 に応募することとしました。
助成を受けた 事業内容	・次脳機能障害のある方向け就労継続支援 B 型事業所の開所。利用者の意向を尊重し総 合的にサービスが提供されるよう創意工夫 し、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、住み 慣れた地域でその人らしく生活できるよう支 援していく。	<ul style="list-style-type: none"> ① PC サロン ・月 2 回、事務所内で自由にパソコンにふれ られる場を提供する。 ② PC 講座 ・テーマを決めて講座を月 1 回開催。全くの 初心者向けから始めて、将来的には専門 的な講座を実施し WEB 関連のスキルを 学び、働く場・職種を広げることめざす。
助成項目	施設改修費用	設計費、設備を含む施設改修費、前家賃
申請額	1,000,000 円	323,000 円
サポーター数	1 名	5 名

団体名	みたか・みんなの広場運営協議会
企画名	「三鷹の高齢者お役立ちハンドブック(改訂版)」の印刷及び配布
助成種類	2 地域福祉に関する地域の活動
団体の概要	<p>・みたか・みんなの広場は、三鷹市を中心に、高齢社会をテーマにさまざまな活動に取り組む団体が連携するネットワークです。高齢者が集い暮らすグループリビングを運営する NPO 法人ヒューマンループ、シニアの力を生かした新事業開発を目指す NPO 法人日本シニアジョブクラブなど 6 団体が参加。活動の中心は、住宅街の中にある活動拠点の一室を借りて、月 10 本ほど開かれる「サロン」の企画と運営。平均年齢 75 歳以上のメンバーで構成。高齢者に関わる様々な問題を当事者自身として考え、行動すべきだと認識し、活動している。</p>
助成を受けた事業の内容	<p>・9年前に発行した「三鷹の高齢者お役立ちハンドブック」の改訂版の発行。</p> <p>ハンドブックに対する高齢者の要請や関係団体の反響を踏まえ、改訂版を提供することで、高齢者自身の自立意識の向上と関係団体との連携の強化を図り、多岐にわたる問題に対応しなければならないと考えている。ハンドブックの提供により、高齢者に必要な情報提供のみならず、高齢者自身が自分の問題として考え、決定する=高齢者の自立の覚醒を目指したい。</p>
助成項目	印刷費
助成申請金額	300,000 円
サポーター数	1 名